

子育てひろば「親子わくわくランド」

趣 旨	小学校区を単位として、中地区管内4ヶ所で子育てひろばを開設している。自治体（公民館と保健センター）・地域の親子・自治体と地域を結ぶ民生委員が三位一体で活動することにより、単なる「親子遊び」や「育児サークル」の活動とは異なり、地域コミュニティの形成と親子の地域デビューとなる「地域の居場所」という位置づけて行い、スタッフ一同がそれを共通理解として活動している。
実施主体	中地区公民館、各地区主任児童委員及び民生委員、中地域保健福祉センター、地域のボランティア
参加対象	概ね2、3歳の未就園児と地域の保護者
参加者数	4会場合計で約160名
回 数	年9回×4会場
日 数	合計36日
時 間	合計72時間
場 所	臨港一町内会集会所、桃山園、中地区コミセン、大平第二自治会館
内 容	工作・運動会・クリスマス会などのテーマが毎月決まっているが、基本的な内容は各会場とも同じ あいさつ→自由遊び→お片付け→手遊び→お話のろうそく→テーマ遊び→おやつ（おやつの時間を利用しての保健指導など）→集団遊び→出席カード返却→あいさつ
成 果	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアスタッフがクッションとなっていることで、初めての参加者でも声掛けにより戸惑わずに済むような雰囲気作りを行っている。また、スタッフ一同が仲間作りが進むような工夫をしていることで、公園や近所で会った、民生委員と挨拶したという話や小学校の入学式で民生委員さんと再会したという話を聞くと、些細ではあるが地域コミュニティ形成の一部として機能しているようだ。・ 兄弟のいる参加者は、ボランティアが下の子の面倒を見ていることから、保護者と上のお子さんが一対一で過ごす事ができることにより上のお子さんが安定しているようだ。また、おやつの後の自由時間にボランティアがお子さんを見ていることで、保護者のリフレッシュにもなっている。・ たった月1回ではあるが、近所のお友達やおばさんたちと触れ合うことにより、子ども達が驚くほど社会性が身に付き、回数を経るごとに成長していることがわかる。また、保護者自身もお互いに声を掛け合ったり、地域に関心を持ったりする、といった変化も見受けられる。
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 親子遊び指導者とボランティアスタッフの後継者不足・ 親子遊び指導者に謝礼を払っているが、年間36回のプログラムは財政的に年々厳しくなっている・ 虐待発見という例はないが、保健センターからPRしてもらいながら本当に困っている方から参加してほしいのが悩ましいところだ
問合せ先	新潟市中地区公民館（担当 伊賀 佳代子） TEL：025-271-0017